

千葉市政担当記者様

## 千葉市環境マネジメントシステム（C-EMS「チームス」）の運用について

～コストを低減しながら取組みを維持向上させ、対象施設を拡大～

平成22年度からISO14001環境マネジメントシステムの認証を更新しないこととし、4月1日から市独自の環境マネジメントシステムに移行することとしましたのでお知らせします。

### 1 背景

ISO14001による環境配慮活動については、10年目を迎え、職員の環境配慮意識が高まり取組みが定着しています。一方、今後ともISOの認証を取得・維持していくには相当の経費が必要となること、他の取組みとの重複が見られること、対象施設の拡大による環境負荷の低減を一層進める必要があることから見直しを行います。

### 2 千葉市環境マネジメントシステム（C-EMS「チームス」）の概要

#### (1) 対象施設

平成22年度は、現在ISOの認証を取得している本庁舎、中央コミュニティセンター、ポートサイドタワー、6区役所、3清掃工場、2浄化センターの14施設を対象とします。

また、平成25年度までに市が管理する全施設（約500施設）への拡大を目指します。

#### (2) 取組内容

##### ① 新たな取組み

従来の共通取組みに加え、各課が独自に目標を定め取り組む部門独自取組みを導入します。  
（例：〇〇まつり開催の際にごみの分別収集を実施し分別率を100%とする。）

##### ② 従来からの取組み

- ・ エコオフィス活動（省資源・省エネルギー、グリーン購入、廃棄物排出削減等）
- ・ 一般事務事業（電算システムの電力使用量、外注印刷物等）
- ・ 公共工事（工事発注時の環境配慮依頼）

※ 従来「環境保全・創造施策」については、環境基本計画の点検・評価と重複しているため、取組対象から除外します。

#### (3) 運用方法

① 従来どおり、市長をトップとした管理組織を設け、P（計画）D（実行）C（点検）A（見直し）サイクルによりシステムを継続的に改善していきます。

なお、環境監査には外部の専門家がアドバイザーとして参加します。

② 従来目標達成状況に加え、監査結果やシステムの見直し状況等をホームページ等で公表することにより、取組みの透明性を高め、市民の理解の促進を図ります。

### 3 見直しによる効果

#### (1) 運用コストの低減

現在、ISOの認証維持費は、更新審査の年度（3年毎）で330万円、定期審査の年度（更新審査の年度以外）で164万円かかっていますが、これが毎年度70万円となります。

また、対象施設の拡大に伴う認証取得費（推計1,600万円）が不要となります。

#### (2) 事業活動に即した効果的な取組みの推進

部門独自取組の導入により、各課が自ら設定した目標の達成に向け責任感を持って取り組むことができます。また他課の取組みを参考とした新たな取組みの促進が期待できます。

#### (3) 取組成果の拡大

対象施設を拡大していくことにより、一層の環境負荷の低減が期待できます。